

【アイデア】

整理番号	提案委員	内容	事業区分	担当部会	担当課	担当課の考え方
1	浅妻委員	現在、信濃川を“ウォーターシャトル”が航行しています。これを新潟の「観光」として活用できないものか。「ふるさと村」から「トキメッセ」を観光バスの周遊コースに組み入れるなど考えてほしい。かつて黒崎町では信濃川・中之口川の合流地を“ウォーターフロント”として開発しようという案もあった。	区企画	第3部会	農政商工課	
2	鍋谷委員	【教育関連事業の実施にあたって】 昨年度実施の評価は、参加者の満足度は高かったが保護者や学校関係者の出席が少なかったとあった。学校関係者の参加を促すため、地区校長会長さんの力を借りる。 ・西区小学校長会長 小針小学校長 浜田尚氏 ・新潟市中学校長会長 小針中学校長 高居和夫氏 案内状と簡単なアンケート用紙(学社民連携事業で有意義だったもの、今後への課題…程度のもの)を持参し速やかに出席を依頼する。	自治協提案	全部会	教育支援センター	
3		【区自治協広報紙について】 昨年は、クロスワードパズル、地域双六等に人気があったようだ。西区歴史クイズ、西川に咲く花・海岸花クイズなども手軽にできてよいと思う。(量的にも。なおカット等整理する必要があるように思うが…少なく)	自治協提案	PT1	地域課	
4		【高齢者を地域で支えるモデル事業】 災害発生時、自力避難困難者を地域の人々が協力して避難させた場合、「避難完了」を知らせるものを玄関等にかかげる。(地域によっては黄色のタオルを結んでいるところもあるが、もっとよい物?)	区企画	第1部会 第2部会	健康福祉課 総務課	
5		【高齢者等あんしん見守り活動事業】 水道水もれ、火災報知器電池の取り換え等、ちょっとしたトラブルに対応してくれる団体等を一覧にして配布(おおよその手数料もそえて)	区企画	第2部会	健康福祉課	
6		【地域包括ケアシステム構築のための必要在宅ケア実態調査事業】 介護認定者数は、現在西区では地域包括支援センター圏域(西区で4カ所)でしかわかりません。医療・介護支援は、少し離れた事業所を利用することはあるでしょうが、生活支援となると、小学校単位か自治会単位の対応が必要と思われます。昨年度は介護事業所の利用は他区からの利用もあるので、この実態調査は全体的な検討の方がいいということで、西区においては実施されませんでした。しかし、このシステムを実際に稼働させるためには、もっと身近なところで、要支援者がどの位いて、どのような支援が求められているのか、それに対して地域には、どのような支援のインフラがどのくらいあり、何が足りないのかを明らかにしていかなければなりません。これはコミ協や自治会のあり方にも関わる問題でもあり、一定の期間をかけて体制づくりをしていかなければなりません。それを次年度からは是非取り組んでいく必要があると考えます。	区企画	第2部会	健康福祉課	
7	坂井委員	【西区地域産業活性化事業】 黒崎茶豆やル・レクチェは、首都圏でも品物の質の評価は高いのですが、認知度は山形県のただ茶豆、ラ・フランスに遠く及びません。新潟の人は口下手で、大阪人のように自分の地域の良さを宣伝しません。それで以下の取り組みで西区(近隣の区とも力を合わせ)の産業を元気にしましょう。 ◆西区の特産物— 黒崎茶豆、いもジェンヌ— や南区のル・レクチェを使った商品開発をすすめるとともに、国際情報大学の授業の一環として、宣伝戦略を検討してもらい、それを実行します。 ◆西区に来ないと食べられないものを開発、白鳥のいる冬の佐湯、夏の夕日コンサート、春のチューリップ、西蒲区の岩室温泉と合せた観光ルートを作り、広く宣伝していきます。 ◆内野町商店街に新潟大学の学生に(経営学の授業の一環として)出店してもらいます。世界から、日本中から新潟に集まった若い学生の知恵や若々しい感覚を存分に発揮してもらい、商店街の活性化に力を合わせます。 街に一人の、日本中から集まる若者がいるのは新潟市で内野町だけです。内野町に新しく集会施設がつくれます。これを活用し、「市民大学」など、市内から多くの人を呼び込むような継続的な取組をしましょう。 ◆「全国まちづくりカレッジ」(2015年9月6・7日 岐阜県大垣市で17回目が開催される。毎年300人の教員・学生が集まる)に西区学生からも参加してもらいます。将来は新潟市に「全国まちづくりカレッジ」を誘致します。 ◆西区の農業継続、活性化について、「新潟市の農業」(H27年4月作)を活用し検討会議を立ち上げます。	区企画	第3部会	農政商工課	

整理番号	提案委員	内容	事業区分	担当部会	担当課	担当課の考え方
8	坂井委員	<p>【西区サポーターづくり事業】</p> <p>平成27年度に作られた西区特産物・観光地カレンダーを継続して作成します。西区区民に配布するだけでなく、新潟市の東京でのアンテナショップ「ネスパス」で一定額以上買物した人や、区民の知り合いに送ってもらうなど、区民以外の方に西区の良さを知らせます。その方たちの住所とお名前を登録してもらい、定期的に西区の特産物や観光ルートをご案内し、西区のサポーターとなってもらい、西区に(近隣の南区や西蒲区にも)来ていただきます。</p>	区企画	第3部会	農政商工課	
9	佐野委員	<p>【ラッピング車両を使った広告宣伝活動】</p> <p>定点広告は人目に触れる機会に限られます。そこで、最近広まってきた移動媒体を使った広告・宣伝を積極的に行うことを提案したいと思います。</p> <p>西区の食と農、佐潟は絵になる題材でラッピング車両にふさわしいものと思われま。</p> <p>首都圏のJR車両で宣伝できればベストですが、まずは手近な公用車両から始めてみてはいかがでしょうか。</p>	区企画	第3部会	総務課	
10	広瀬委員	<p>【防犯に係る地域の意識調査の実施】</p> <p>防犯といってもとても漠然とします。</p> <p>地域の子どもをはじめとして、犯罪に巻き込まれない、犯罪に走らせないために、何が必要なのか。何ができるのかを知らなければ防犯は行えない。</p> <p>専門家の知恵をお借りしながらアンケートを実施する。それから防犯具体化を実施していく。</p> <p>Ex) 何が不安か？ 子どもの場合・大人の場合 → どうすれば不安が減るか？ こんな場合、どんな対処をするか？</p>	自治協提案	第1部会	総務課	

【ご意見】

整理番号	提案委員	内容	事業区分	担当部会	担当課	担当課の考え方
1	渡邊正友委員	<p>【除雪後の通学路確保の件】</p> <p>除雪車による雪の始末は、雪の捨て場が近くでない場合、その後の問題が発生するのは市内どこでもあることと思われまます。 中でも通学路がある場合、降雪時の道路排雪が通学路を塞ぎ子ども達(歩行者)は止む無く車道通行をせざるを得ません。 (例:坂井五十嵐一の町線 通称:五十嵐幹線)</p> <p><解決策> 1. 融雪装置の設置 ①融雪水 ②ロードヒート ③融雪剤(塩カル) 2. 雪国(魚沼、小出等)での対策を取り入れる。</p>	区企画	第1部会	建設課	
2	鍋谷委員	<p>防災訓練の際、“AED”の使用講習があるが、実際に使おうと思うとき自宅の近隣のどこにあるのかわからない。(設置に際しては届出義務がないので難しいとは思いますが)地図上に示せないか。 また、施設に設置されていても夜間使用はほとんどできない。一考要す。</p>	区企画	第1部会	健康福祉課 総務課	
3		<p>【地域公共交通検討会議の再開を】</p> <p>昨年の平成26年度第9回西区自治協議会に提出された「平成26年度第2回西区地域公共交通検討会議・要旨」において「地域公共交通検討会議は継続して開催していただきたい」とされています。参加していた自治協委員は9名中6名が自治協委員でなくなっているため、新しい人を補充し、再開・継続する必要があるのではないのでしょうか。</p>	区企画	第3部会	地域課	
4	坂井委員	<p>【商店街の活性化事業について】</p> <p>同じく、西区拠点商業活性化推進事業計画も、西区拠点商業活性化推進委員会でご取組がすすまられています。計画を作られた検討委員会や事務局の方には、本当にご苦労だったと思います。ただ、商店街の落ち込みが大きいだけに、簡単には活性化には行かないと思います。自治協でも引き続いての議論、新たな挑戦が求められると思います。</p>	区企画	第3部会	農政商工課	
5		<p>【「特色ある区づくり事業」と「自治協提案事業」の考え方を明確に】</p> <p>特色ある区づくり事業と自治協提案事業の性格を明らかにする必要があるのではないのでしょうか？アートフェスティバルは、これからも毎年やるのであれば、特色ある区づくり事業の範疇に入らないのでしょうか。高齢化をテーマにした認知症についての講演会も、介護予防の問題です。自治協提案事業は、イベント的なものになりがちなのですが、自治協として方向を探りたいもの、自治体の事業にはなりにくいチャレンジ的な事業を行えないのでしょうか。</p>	区企画	全部会	地域課 総務課	

整理番号	提案委員	内容	事業区分	担当部会	担当課	担当課の考え方
6	坂井委員	<p>【区制(政)のあり方について】</p> <p>プロジェクトチーム1はなくなってしまいましたが、区制(政)について感じていることが二点あります。</p> <p>第一は、職員に自分の分を少し超えても、住民のために力を発揮して欲しいということです。本会の全体会で私道の除雪の問題と通行の安全の問題で意見を述べました。私自身の最近の体験について述べます。私は自治会の衛生部長をしています。町内で「向かいの家の林が放りっぱなしで、夏になると虫が出て家の方に来る。気持ち悪いのでなんとかして欲しい」という要望が出ました。前衛生部長に聞いてみると「それは前から問題になっていて、当事者に言っても解決しないし、区役所に行っても私有地の問題だからと取り合ってくれない」とのことでした。私も林の所有者のところに行きましたが、高齢の男性一人の住まいでどうしようもないということでした。仕方なく、保健所の環境衛生課に行きましたら、区役所で噴霧器を貸してくれるとのことでしたので、その場から区役所に電話をし、そのことを確認しました。昨年10月のことでしたので冬期間は虫が出ないとのことなので昨年はそれまででした。今年の春になって噴霧器を借りに行きましたら、噴霧器の貸し出しは6月からとのことでした。そして、噴霧器は貸すが中に入れる薬はわからない、保健所が支給するということでした。仕方なくもう一度保健所に行きましたら、薬は支給するのではなく、ホームセンターで買ってもらうとのことでした。「役所としては特定の薬を推薦できない」と言うので、それでは素人の私たちがどうしようもないではないかと行って、薬を紹介してもらいました。そしてやっと噴霧器を区役所から借りて、6月・7月と消毒をしました。木が10メートル以上あって、薬が一番上に届かない(業者に聞いても、下から一番上に届けるのは無理とのことでした)ので、どれだけ効果があるのかはまだわかりません。これなどは、最初から「私有地のことは知りません」というのではなく、区民が現実困っているのだから、持っているノウハウを使って懇切丁寧に相談にのって欲しいと思います。対応も私の質問には答えているのかもしれませんが、貸し出す時期や薬のことをその場で言ってくれれば、私がこんなに何度も保健所と区役所を行き来しなくてよかったです。こういうのを俗にお役所仕事というのではないのでしょうか。民間では考えられないことです。</p> <p>第二は、区民の区役所の交通問題から来ている区役所が遠いという問題です。黒崎や西地域のことはよく問題になります。足元の坂井輪地域のことは小針、青山・浦山、五十嵐地域の方は何にしても区役所に来なければなりません。自家用車に乗らない人にはこれがかなり不便なのです。新たな施設をつくることはできないと思いますので、西新潟市民会館、青山コミュニティハウス、坂井輪コミュニティセンター、五十嵐コミュニティハウスに住民票などを取れる連絡所を設置できないでしょうか。</p>	区企画	第1～3部会	地域課 総務課	
7		<p>【私道除雪問題検討事業】</p> <p>私道の除雪問題は、昨年度の自治協の会議でも様々な議論がされました。しかし、区側の主張—道路法で決められた道路(市道認定された道路)を除雪することが原則であり、これを動かしてはならないと考えている。自治協委員の主張—生活に使っている道路であり、何とかして少しずつでも除雪路線を増やして欲しい。このようにかみ合っておらず、少しずつでも前進していく方向にはなっていません。</p> <p>そもそもの原因は、街の発展に比して都市計画が遅れ、区画整理が行われないうちに住宅が建てられて、あちこちで行き止まりの道ができてしまったことが原因です。そして「行き止まりの道は市道編入しない」という市の方針があります。住民からすれば私道であっても道路にしか使えないのだから、市道にしてもらってもいいのです。上記のような原因から、かなり長い私道が数多くあって、除雪に困っているのです。</p> <p>区の職員は、「自治会で業者に頼んでください」といいますが、建設業者が減少し除雪能力が落ちていることもあって、ほとんどとりあってくれません。区の建設課の方の話だと、昼間私道を除雪していると、「自宅の前に雪を置いた」と苦情が出て能率が上がらずやりたくないと言っているとのことでした。業者からすると、除雪は労力の割に収益があがらないので、あまりやりたくない仕事なのです。入札の際のランク付けの点数に係わるので、市に頼まれば仕方なくやるのです。</p> <p>しかし、現実に区民が困っているのだから、区役所としても解決に労をつかさなければいけないのではないのでしょうか。建設業者への依頼、手押しの除雪機による自治会や有償での農家の方などによる除雪、融雪道路の検討、中学校の冬の体育の時間や大雪の際は地域と協力ということで、近所の除雪など検討できないでしょうか。一万円いる大学生にアルバイトとして力を活用できないか等。自治会役員や様々な方たちもまきこんでの検討会をたちあげられないでしょうか。これは主に防災にかかわる問題ですが、福祉や教育の問題でもあり、交通の問題でもあります。自治協が全部会をあげて検討する必要があると思います。今この時点では、区事業として行うコンセンサスが得られない可能性が強いので、自治協提案事業としたいと思います。新潟市よりもはるかに多い豪雪地帯もあるので、他地域の取り組みも調べてみたいと思います。</p>	自治協提案	第1部会	建設課	

整理番号	提案委員	内容	事業区分	担当部会	担当課	担当課の考え方
8	坂井委員	<p>【西区産業活性化講演会】</p> <p>西区の産業振興を考えていく上で、とりあえず次期は、産業活性化についての講演会を開催します。その後、産業活性化検討会議を立ち上げ、農業・商業・製造業・建設業・サービス業などの部会を設置し、数年かけて検討していったらどうでしょうか。出発として地域経済学会会長の岡田知弘京都大学大学院教授と、塩川酒造と一緒に清酒「新雪物語」を作っておられる伊藤亮司新潟大学農学部助教授の講演会の開催を自治協提案事業として行いたい。多くの業者団体、地域振興に興味がある方、大学生に広く案内します。お二人とも地域経済には大変深い造詣をもっておられます。その後の西区の産業振興策の策定にも力を貸していただけたと思います。</p>	自治協提案	第3部会	農政商工課	
9	城丸委員	<p>「人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち」において、高齢者に関する事業が行われていますが、あくまでも高齢者に対する講習会であり、今後負担がかかる若者への介護の教育ができていないと思われます。高齢者の介護を行う側の講習会を行ってみたいはどうでしょうか。今後も介護の需要は増えていくだけではなく、今現在においても人手不足です。在宅介護を行うためには知識も必要不可欠です。検討宜しく御願います。</p>	区企画	第2部会	健康福祉課	